

脱炭素社会

町の電力供給の姿どう描く 電気の地産地消率を高める



みやがわ のりみつ 議員
宮川 徳光

また、昨年9月定例会にて、脱炭素の取り組みを産業振興に結びつけたなどの答弁があったが、その後の動きや見通しは

答 宮川 環境政策室長

この「くろしおエナジー株式会社」は、当町の脱炭素先行地域の計画により、町も出資をして設立し、昨年度は公共施設を中心に太陽光発電設備

などの再生可能エネルギーの導入を進めている。今後と同様に、計画に基づいた設備導入を同会社が担うことで、エネルギー経費が町内で留まり循環することが想定をされ、経済の活性化に期待が出来るほか、電気の地産地消の割合を高めることが、当町の地域課題の解決にも寄与するものと考えている。

また、産業振興については、これら設備の設置や管理、関連機器の納入などの事業を出来るだけ町内の事業者で担えないかなど、実現可能な連携を模索していきたい。

問 当町は2021年6月にゼロカーボンシティを宣言して、2050年温室効果ガス排出量実質ゼロを目標としている。加えて、令和5年4月に環境省より脱炭素先行地域に採択され、種々の事業に取り組む中、以下を問う。



「くろしおエナジー株式会社」関連で設置の進む太陽光発電事業の一例
(上：ビオスおおがた、下：佐賀小学校。共に令和5年度事業で設置済み)

林業振興

脱炭素先行地域の取組みは 循環型の山林整備を目指す



森林境界の測量作業の一コマ
(令和5年10月、大井川)

答 今西 海洋森林課長

問 当町は、総面積の約8割を森林が占めているが、林業は全国的にも停滞を続けてきていた。

近年、地球規模の温暖化への対処とした脱炭素対策などで林業に多くの目が向けられて来ている。加えて、当町は、昨年4月に「脱炭素先行地域」に選定され、当町の林業にも強い追い風が吹いて来ていると感じている。この「脱炭素先行地域」選定後の取り組みを問う。

森林には、二酸化炭素を吸収する大きな役割があり、森林整備を進めることで、結果、身近な森林が脱炭素対策に大きく貢献することになる。

具体的整備策としては、現在取り組み中の「森林管理システム事業」により、まず森林境界の明確化を行い、次年度に意向調査、3年目には各種同意の取得、4年目以降に、その後5力年で間伐などの森林整備を行う。これらにより、町内の森林での良質な木材搬出に結びつき、その後の再造林により、循環型の山林整備に結びついていく。この一連の流れで、重要な二酸化炭素吸収の役割を果たすこととなる。

また、伐採後の再造林については、本年度より新規の取り組みとして「森林環境保全整備事業」を実施している。内容は、再造林費用の個人負担を軽減するもので、費用の90%を県が、残り10%を町が補助する制度となっている。今後、将来的に安定かつ持続が可能な次世代に引き継げる森林施策を推進していきたい。